

(調査実施状況)

最終確認グループの実施状況

	【二親世帯】	【母子世帯】	【単身男性・稼働年齢】	【単身女性・稼働年齢】
日時	2012年12月4日(火) 13:00-16:00	2012年12月15日(土) 13:00-16:00	2013年3月18日(月) 10:00-13:00	2013年3月18日(月) 14:30-17:30
会場	三鷹産業プラザ 705 会議室	三鷹商工会館 401 会議室	三鷹産業プラザ 703 会議室	三鷹産業プラザ 703 会議室
参加者	男性 5 名、女性 5 名	女性 8 名	男性 8 名	女性 8 名
モデレーター	阿部、山田	阿部、上枝	山田、重川	上枝、山田
記録者	岩永、進藤、福山	進藤、福山	進藤、福山	進藤、福山
掲示物	<ul style="list-style-type: none"> ・ MIS 調査の概要 ・ 「基礎的生活」の定義 ・ 住居の間取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ MIS 調査の概要 ・ 「基礎的生活」の定義 ・ 住居の間取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ MIS 調査の概要 ・ 「基礎的生活」の定義 ・ 住居の間取り ・ 【図 1】単身男性最低生活費 	<ul style="list-style-type: none"> ・ MIS 調査の概要 ・ 「基礎的生活」の定義 ・ 住居の間取り ・ 【図 1】単身女性最低生活費
配布物	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「調査の流れ」「基礎生活の定義」 ・ 価格付き品目リスト ・ 献立表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「調査の流れ」「基礎生活の定義」 ・ 価格付き品目リスト ・ 献立表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「調査の流れ」「基礎生活の定義」 ・ 価格付き品目リスト ・ 30代男性献立表 ・ 配布資料 1(表 1、図 1、表 2) ・ 献立表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「調査の流れ」「基礎生活の定義」 ・ 価格付き品目リスト ・ 30代女性献立表 ・ 配布資料 1(表 1、図 1、表 2) ・ 献立表
機材	大判台紙付きメモパッド	大判台紙付きメモパッド	大判台紙付きメモパッド	大判台紙付きメモパッド
事務局	速記者 1 名、事務 2 名	速記者 1 名、事務 2 名	速記者 1 名、事務 2 名	速記者 1 名、事務 2 名

(調査実施状況)

最終確認グループの実施状況

	【高齢単身男女世帯】
会場	2013年3月19日(火) 14:00-17:00 三鷹商工会館 301 会議室
参加者	男性 5 名、女性 4 名(1 名欠席)
モデレーター	阿部、岩永
記録者	進藤、福山
掲示物	<ul style="list-style-type: none">・ MIS 調査の概要・ 「基礎的生活」の定義・ 住居の間取り・ 【図 1①】 高齢単身男性最低生活費・ 【図 1②】 高齢単身女性最低生活費
配布物	<ul style="list-style-type: none">・ 「調査の流れ」「基礎生活の定義」・ 価格付き品目リスト・ 配付資料 1 (表 1、図 1①、図 1②、表 2)・ 献立表
機材	大判台紙付きメモパッド
事務局	速記者 1 名、事務 2 名

最終確認グループ（二親世帯）グループ記録メモ

場所：三鷹産業プラザ7階 703会議室

日時：2012年12月4日（火）13:00～16:00

参加者：10名（遅刻・欠席者無し）

モデレーター：阿部（前半）、山田（後半）、進藤、福山、岩永（記録担当）

★前半 13:00～15:15

■イントロダクション

- ・研究チーム、参加者が順に自己紹介
- ・研究概要の説明

- ① 必要な生活費とはどういうものか、を考える。消費実態ではなく、日本に住む国民の常識から必要なもの、必要な費用、を考える。
- ② 「調査の流れ」。すでに7段階まで終えている。
- ③ 最初のグループで、決めた最低生活の定義に沿って、必要なものを考える。手元の資料参照。
- ④ 議論する際は、架空の父、母、子どもを前提にして考える。ご自身の経験をもとに考えざるをえないが、あくまでもこの架空の家族について定義にかなう必要なものを考える。

【その他、注意喚起した事項については、トピックガイドを参照。】

■食費

- 献立の説明（子どもの献立を最初に考え、次に親の献立を考えている。栄養士のチェックがあつて、かなり子どもの献立は豊富化されている。）
- 献立表の見方（これまでの議論の経緯。特に外食、お酒、間食について。）
- 金曜日の朝食、子どもも、惣菜パン、牛乳、バナナヨーグルト
- 日曜日の朝食、卵入り納豆、焼き海苔、焼き魚、豆腐・ワカメの味噌汁で統一。
- 月曜日の朝食、6枚切りの食パンに合わせる。
- 水曜日の朝食、6枚切りの食パンにする。
- 土曜日の朝食、子どもクリームシチュー、トースト。
- 水曜日の夕食、親にもきんぴらを足す。
- 木曜日の朝食、子どもの牛乳を削除。
- 発泡酒は、外に飲みに行く機会があるのならば、必要ないのではないか、という意見。やはり必要だという意見がある。→全体の生活費の価格をみてから見直す。このままでよいと考える。
- 昼食のペットボトルのお茶は、100円ショップの100円のお茶とする。
- 基本的に、家族間で個人量は異なるとしても同じものを食べるという想定でないとおかしい。
- 火曜日の夕食、いちごを足す。

- 土曜日の夕食、いちごを足す。
- 29日、全員、ハンバーグ、ポテトサラダ、野菜スープのメニューとする。
- 日曜日間食、ショートケーキを全員。
- 土曜日朝食、母のサラダを取る。
- 前日の夜にサラダがある場合は、翌日の朝は、全員にサラダをつける。
- コーヒーは嗜好品なので、人によるのではないか。→全体の生活費の価格をみてから見直す。嗜好品は必要と考えて、そのままとする。

■住居

- 家賃は、特に問題なし。

■交通

- 年に一回くらいは、救急で病院にかかるためにタクシー代が必要になることがあるのではないか。予備費があるので、それで賄えばよいということとする。

■交際～

- 特に問題なし。

■携帯～

- 子どもの郵便費は不要。
- IP電話、インターネット使用量+1500円、3000円、2000円（通話込）との意見があり、2000円とする。

■家具類

- ホットプレート、電気ポットが不要ではないか。→全体の生活費の価格をみてから見直す。不要。
- ホットカーペットとエアコンは共に使うのであるのならどちらか不要ではないか。→全体の生活費の価格をみてから見直す。そのままとする。
- コタツがいるのではないか。狭いから。

■寝具類

- 特に問題なし。

■家事用品

- 食器をニトリか、100均か。おとなのニトリの食器に合わせることにする。
- 卵焼き機は必要ではないか→入れる。
- 子どものボディタオルを追加する。

■衣類

- パジャマとして、スウェット上下セットを一つ追加する。

■装身具

- 数珠は必要ないのではないか、という意見があったが、これは必要とする。

■理美容

- 電気カミソリの替刃、6年間で1.5、入れる。

■水光熱

- 特に問題なし

■保健医療

- 歯科診療代が高いようにも思う。→全体の生活費の価格をみてから見直す。女性の10,000円にあわせる。

■小学校で必要なもの

- 特に問題なし。

■文具等

- 特に問題なし。

■その他

- 子どもが小学校5年生ということを見ると、死亡保険最高1000万は少ないと思われる。
- 「安心して」、「将来への見通し」を考えると、学資保険に入るという考えもあるのではないか。月額5000円くらい。
- 予備的な積立は、年金とも関係していると思うので、老後も考えて積み立てが必要になるのではないか。

★後半 15:30~16:00

- ・全体の金額を提示する。
- ・全体的に高いと思う方が多数。
- ・男性の、スーツ代、ネクタイ代が高い。
- ・家賃について。家賃は、駅から遠くてもあまり変わらなそう。もう少し安くても遠い物件があるのなら、その方がよい。一方で、自転車で通勤しなくてよいため、駐輪場は除く。
- ・食費が高いと思ったが、減らせるところはない。発泡酒、このくらいなら当然だと思う。
- ・ホットカーペットはそのままとする。
- ・非貯蓄型保険、予備的な積立について。保険は、将来のことをあるにこしたことはない。

以上

最終確認グループ(母子世帯) グループメモ

日時：2012年12月15日(土) 13:00～16:00

場所：三鷹商工会館 401 会議室

モデレーター：阿部、上枝、進藤、福山

参加者：8名

導入部分

住居(家賃を示さず意見を聞く)

- ・46㎡は、2人だと広い。
- ・南側にバルコニーが欲しい。
- ・子どもの成長とともに洋服や物が増えるので収納が必要。
- ・(高齢者での1DKを見て) 玄関入ってすぐ更衣をするのはどうか。
ここでは決まらなかったもので、後で再度聞く。

品目リスト

- ・子どもが行楽等に行く際の自転車の駐輪場代が必要：1日100円。
- ・2月に1回外出する。吉祥寺・新宿・渋谷など 交通費の追加。
映画鑑賞か、ウィンドーショッピング。
- ・テレビについては、小さくてよいという意見と子どもの目の健康を考えて、DVDはノートパソコンではなく大きなテレビで見せたいという意見があった。変更なし。
- ・ディズニーランドは入っていないのか。(毎回質問が出る)
- ・平日子どもが母親の帰宅まで一人であることになるので、習字や剣道などの習い事を2つ追加(各2000円の月謝)。近所の人がしている安い習い事。
- ・英会話も必要という意見もあったが、英会話・ピアノ・バレエは高価という意見。
- ・携帯電話は子どもも必要 1,200円くらい。
- ・母親の携帯電話の通話料は7,000円に増やす。
- ・ノートパソコンはもっと安いものにする。
- ・冷蔵庫についてはもっと小さくていいという意見と、週末買い物や冷凍食品を入れる必要があるのでは、このままでいいという意見があり、変更なしとなった。
- ・子どもの食器もニトリで購入する。
- ・洗濯用洗剤のところで2日に1度と書いてあるが、毎日洗濯する。耐用月数を1に。
- ・コートかスーツはもっと高価なものが必要では 例えば1着は4万円のスーツ。
- ・子どもにもブラジャーが必要 個数などは親と同じ。

- ・子どもの婦人用ソックスの値段が 197 円と安いがあるか→確認する。
- ・診療代は親が 13000 円、子どもが 2000 円にする。母子世帯だと補助がある。
- ・死亡保険は 1 千万円保障のものが必要 月額 3500 円の保険料。
- ・学資保険は 1 万円だと不足したので、1 万 5 千円必要。子どもが 18 歳で受け取り。子どもを大学に進ませたいという意見あり。

メニュー

- ・朝食・夕食など母親と子どもで異なっているメニューは、子どものメニューにあわせる。
- ・母親の昼食の緑茶（コンビニ購入）は、家で淹れて水筒を持参。
- ・29 日の母親の昼食で、紅茶（ティバック持参）はそのまま。
- ・木曜日の母親の間食のプリンは、金曜日に移動する。子どもと一緒に食べる。
- ・金曜日の夕食で母親が発泡酒を飲むときと日曜日の夕食でビールを飲むときは子どものメニューに炭酸飲料（三ツ矢サイダー）を追加。
- ・土曜日の昼食は母子とも月 2 回がマックのバリューセット、月 2 回は冷麦。
- ・30 日の子どもの間食にショートケーキを追加。

最終確認

- ・間取りは家賃 67,000 円の 2 になった。
- ・スーツはジャケットがあるので追加は必要ない。
- ・こたつかホットカーペットか→ホットカーペットのまま。

[感想]

子どもをととても大切にしている、教育を重視しているという印象を受けた。また女の子だとおしゃれがしたいだろうとか清潔な生活を送らせたいと考えていた。

今日子どもは、保育所や親戚でみてもらっていた。ふだん一緒に過ごす時間が少ないので、品目リストの際に、週末は一緒に出かけたいと話していた。またエアコンや暖房器具のところで、子どもが先に寝て、親は家事を続けるという話が出た。ドアを閉めると親は暑い／寒い。

携帯電話やお稽古事の話は、共働き世帯では出てこなかったが、必要かもしれない。

冷蔵庫やホットカーペットなどは考えに違いがみられた。週末にまとめて買い物・調理するかどうか、部屋の広さと電気代のどちらを重視するかにより異なる。

メニューは、あまり時間がかからなかった。

最後に金額を聞いても誰も高いといわず、安いものに変更や削除の希望もなかった。

住居については以前も話に出たが、現在だけではなく将来も考えて決定しようとする。

子どもの年齢により必要な住居は異なる。また子どもが男子であれば違っていたかもしれない。

以上

MIS 最終確認②グループ（単身男性、稼働年齢）実施報告

1. 実施概要

日時：平成25年3月18日（月） 10:00～13:00
場所：三鷹産業プラザ703会議室
モデレーター：山田、重川、福山、進藤（敬称略）
※ 主モデレーター＝山田
参加者：8名

2. 全般的な総支出額の確認

消費支出額、住居費を除く消費支出額、3年以上耐久財、1年以上耐久財を除く月額について概ね妥当。

現在の自分の状況から考え節約、自炊などするとすれば妥当。

住居費がもう少し削れそう（同意見あり）。

交際費などあわせると住居費を除いても10万円くらいかかる（＝低い）。

少し高い。

将来のことなど考えたり人につきあったりするとまあ妥当。

→極端に高い、低いという意見はなし。

3. 一般水準（家計調査・全国消費実態調査）との費目別比較に対する意見

消費支出全体について

概ね妥当。平均の7～9割は妥当。

三鷹という地域性をどう判断してよいのか。三鷹の地域を考えれば、三鷹での最低必要な費用が全都市部の平均値位に相当するのではないか。

住居費を除く値は6割くらいに抑えられるのでは。

費目別について

家具家事用品は1人暮らしの男性であれば、全国どこに住んでいても変わらないと思うので、全国平均値に近くてもよいのでは。

家具家事用品について、インターネット利用して価格を調べて安い物を購入可能なので、もっと安いのではないか（セールス品で入手できるものではなく、常に入手できるものを基準として考えていることを補足説明）。

保健医療、交通通信はこんなに乖離するものなのか（低いのか）違和感あり。

教養娯楽は東京だからもっと高いのではないか。

4. 各費目の検討・最終確認

まず、3で違和感のあった費目について検討。

扇風機は不要では。冬場もサーキュレーター代わりに使用できるのであってもよい。

→維持

洗濯機、炊飯器の耐用年数について、短すぎるとの意見もあったが、使用頻度、使用場所（屋内設置）、部品保有期間を考えて、妥当との結論。

靴用ラックは、シューズボックスがあるので不要→合意。

目覚まし時計が安すぎて信頼できるのか不安。→ニトリで普通に売られているものなので、まあ普通のアラーム機能を持つ時計として使用可能と考えられるとの意見で合意。

レースカーテンが重複→要確認。

コンロは住居に既設では→要検討。

空気清浄機が必要。あった方がよいが、基礎的生活の範囲か？ →必ずしも必要ではない。

浴用スリッパ不要→浴室がぬれていることもあるので、必要。

バスタオル枚数少ない、耐用年数長い→4枚に変更。

柔軟剤、おしゃれ着用両方必要？→一体化のものに変更で合意。

室内消臭剤は不要では（靴用消臭剤があるのでそれだけでよい）。不可欠とはいえない。

→削除で合意。

トイレ掃除用具があるのでブルーレットは不要、合意。

タオル少ない。枚数をふやして、耐用年数をふやす。→12枚で36ヶ月に。

(休憩)

保健医療費

健康診断が必要では。→自治体の無料の健診を利用するのであればそれでOK。

交通費

定期があることが前提となっている。就業状態が不確定であるので、ないことを想定しての検討を促した。月々の日常的交通費2000円は妥当、との意見で合意。

携帯電話通信料

現在に金額は安い。基本が4000円で、それに1~2000円あるいは2~3000円加わるのが一般的では。→6000円。これに機器リース分上乗せとして1000円追加。

教養娯楽

贈与金が少ない。結婚式年1回の想定は少ない。年に10回あったこともあるとの意見に対し、5年間として、ならして考えることを提案→5年で15回、8~10回、10回など、5年で10回に。金額は会費制（1.5万円程度）のこともある、との意見もあったが1回あたりは3万円合意。香典は原案でOK。

普通の電池とエネルーブがあるのでどちらか一方でよい→エネルーブのみに。

旅行

安いのでは。年2回は妥当。安いものを利用することもあるかもしれないが、ならして考えて単価は3.5万くらい→合意。3.5万円を年2回。

衣類

ジーンズ690円は安すぎるのでは。→ユニクロ、ジーンズメイトなどで購入に。

夏もはくとすると2着では少ない。ジーンズあるいはチノパンあわせて4本は必要。4本なら耐用年数は36ヶ月。36ヶ月もつものとする、680円では難しい。ユニクロの物なら3年で大丈夫。

スーツも少ない→（仕事状況が不確定であることを再度確認。）1着加えて、オールシーズン用で3着に。

スーツで着用状況との関係で耐用年数が検討されたが、礼服の耐用年数はOKか確認→36ヶ月を60ヶ月に変更。

手袋100円は軍手？外出時のことを考えると、もう少しきちんとしたものに。→合皮のものをユニクロ、西友等で。耐用月数は36ヶ月に変更。

スーツのクリーニングについて、アイロンを保有しており折り付けはアイロンで可能なので、2ヶ月1回でOKでは→合意。

コートが3種類あるが、スプリングコートはなくてもOK→合意。

この他の分類費目についても、確認していただき、OK。

5.住居費

環境変えるために引っ越したいと思ったりするが、必要とはいえない。引越は「贅沢」的。環境が変わり4年に1回引っ越している。その位の期間ごとで環境に変化がおこるのはいいか。

転職や転勤等の転機があったときに引っ越す。

10年位経つと、現状より安くいい物件に移れるのでは（実際そうであった）。
悪くなさそうな物件なので、このままでもよいのではないか。6～8年位住んでも良さそう。
→「10年は住む」で合意。
敷金について、10年居住で半額返金。数年だと、半分あるいはもっと少ない。
戻ってこない前提で必要な支出と考えておいた方がよい。
→敷金については戻ってこない前提で10年居住として含める。

6.最終確認

住居費について、居住年数が変わるのでその分少し下がることを確認。（確認資料には更新料は含めていなかった。）

7.感想

- ・ 費目別一般水準との妥当性を検討し、まず、その中で違和感を感じた費目の詳細内容を検討していただいたので、「問題意識」のようなものを持ちながら見ていただけたようだった。1つ1つ細かくではないが、全体を通して、個数、耐用期間を確認いただけた。
- ・ 家具家事用品については、全国平均と同じでも良い、など費目によって参加者が最低必要な基礎的生活費が平均を下回ってはいなくてはならない、と考えていないことは示唆的であった。
- ・ 携帯やPCのように価格変化の大きい物は、1～2年でも調査時点の状況に大きく依存する。今回の結果をどう扱うかは検討が必要。
- ・ 携帯料金が機器台を含めると約2倍になっているが、時間が許せば、携帯料金の最低必要な基礎的生活に占める割合から、本当に妥当と考えて良いのか、考えて頂く機会があれば、なお良かったように思う。
- ・ 消臭剤や芳香剤などの検討では、全体的な保有・利用状況を見ながらの意見もあったが、その時々参加者の嗜好により変化する可能性を感じた。
- ・ 敷金について、今回の参加者の経験を踏まえると、一定分返還も考えられるが、「戻ってこないこと前提」との意見も。入居時に用意が必要なので「全額使用」扱いとするのか、返還実態を踏まえた金額とするか、調査側で検討・決定が必要。
- ・ これまでと同じく、自分自身の状況に引きずられやすい印象。
- ・ 交通費については、定期があることが前提になってしまっていること、女性の場合の考え方を紹介したりもしたが、原案でOKで合意となった。これも、（おそらく定期を保有している）自分自身の状況に引きずられての意見かもしれない。

MIS 最終確認②グループ（単身女性、稼働年齢）実施報告

1. 実施概要

日時：2013年3月18日（月）14:30～17:30

場所：三鷹産業プラザ 703 会議室

モデレーター：上枝、山田、福山、進藤（敬称略）

※ 主モデレーター＝山田

参加者：8名

2. 全般的な総支出額の確認

消費支出額、住居費を除く消費支出額、3年以上耐久財、1年以上耐久財を除く月額について

1年以上耐久財を除く月額（3.1万円の中に食費やティッシュペーパー等の1年未満で購入するなど品目などが含まれているとの説明の上）については低い、もっとかかるのではとの意見が多かった。

住居費を除く消費支出額（7万円）については高いとした人も2人いたが、低いとしたのは6名で、やはり低いとする意見が多かった。

友人の結婚式が重なるとこの金額では難しいとの意見もあった。

3. 一般水準（家計調査・全国消費実態調査）との費目別比較に対する意見

消費支出全体について

都市部は住居費が高いので、住居費を除くと消費支出は現実にはもっと低く抑えられているのではないかという意見があった（モデレーター注：表の読み方について誤解がある可能性）。

また住居費を除いた消費支出の理想は、平均値の8～9割だが 現実には6～7割というのは妥当であるという意見がある一方、かかる費目は人によって趣味などによって違うが、もう少しないと最低限にならない、という意見もあった。

貯蓄などは含まれていない、という説明に対し、老後のための貯金はどうなっているのか 若くて健康であればこの金額であればよいが将来への備えがどうなるのか、という懸念を表明する参加者もいた。

費目別支出について

教養・娯楽費に交際費、外食、趣味などにかかる費用が含まれている事を説明すると、教養・娯楽費は低すぎるとの意見もあった。とくに教養・娯楽費に資格取得などの費用などを含めている事を補足説明すると、相当低いのではないかという意見もあった。

全般的に、どちらかといえば、低いという印象をグループ全体では共有しているようであった。

4. 各費目の検討・最終確認

全消・家計調査と乖離の大きい被服費・履物についてまず検討

全体的に耐用年数が12か月と短すぎるのと、購入先のブランドが田中さんの年齢を考えた場合、かなり恥ずかしいものではないか、という意見が出され、耐用年数と購入先が変更された。とりわけ西友・イトーヨーカドーはない、というかなり強い意見が出された。また安い服を着ていること自体がよくない、という意見もあった。

まず、真っ新たな状況で新たに生活を立ち上げるので3着購入とされている箇所は1度に購入している事を説明した。

具体的なお店での購入として、セレクトショップやデパート（パルコ）、インターネットであればAmazon や楽天などで価格帯を考慮しつつ商品を選択するという方法を挙げていただいたが、モデレーター側からは、最低必要な基礎的生活として妥当な具体的モノやサービスの品質から価格付けを行うので、具体的なブランド名について挙げていただくようお願いした。

通販のニッセンなどについては了承されたが、それ以外にもベルメゾンやZozotownなどの利用が提案された。

礼服は3年で体型が変わるということで耐用年数が決まっている事に疑問が出され、1年に1回程度の使用なら5年（60か月）くらいは使用するのではないかとということで延長された。

インナー以外の、外出用の衣類の耐用月数が1年程度と短すぎるのではないかと疑問が出され、コートやジャケットは家で洗濯しないのももう少し良いもの（たとえばジャケットなら1.5万円）を購入することにして、耐用月数を3年程度にすべきとの意見で集約された。また現在の購入先では、たとえば都心（丸の内）のオフィスなどで着るには恥ずかしいのでは、という意見が出された。

ユニクロで購入予定の衣服についてはこのままの購入先で良いが「洋服屋さんなのでブーツ・靴類については作りが雑なので購入先としては不適當」という意見が出され、ブーツについては購入先がABCマートに変更された。

具体的な購入先としては最終的に、INDEX、ZARA、H&M、Natural Beautyなど駅の周辺や駅ビル（アトレ）などで入手可能なものが提案された。Forever 21という意見も出されたが、田中さんの年齢を考えるとかなり若い人向けで、そぐわないのではないかとという反対意見が出され、購入先候補から外された。モデレーター側ではこの中の低い価格帯から価格付けを行うことにした。

装身具

確認した結果、結婚式用にアクセサリが必要であり、お見合いもあるかも知れないということで、シルバーだと10年もたないということですでに候補に挙がっていたプラチナ（10K）イエローゴールドで合意された。またイヤリングがセットでいるということで合意された（ピアスは耳に穴が開いていない人もいるので不適當とされた）。指輪は不要のままで良いことになった。

トートバック・ハンドバックについては、36か月の耐用年数は長すぎるのではないかと意見が出され、12か月に変更された。購入先も洋服と同じブランドに変更された。冠婚葬祭用についてはニッセンのままで良いことになった。

数珠、数珠袋、袱紗については、この年齢で持っていないと非常識と思われる可能性があり、必要との意見で復活することになった。購入先・耐用年数については特に意見は出されなかった。

（休憩）

理美容品・サービス

化粧品でセザンヌというブランドは「最低限より落ちる、という印象で、それなら 100 均でいいというレベル」で、KATE、メイベリンなどが適当ということで変更が合意された。「ちふれ」はそのままで良いということになった。

カット代 4800 円については高く、Hot Pepper などのクーポンを使用して 3900 円位に抑えられるのではないかという意見があったが、三鷹市周辺でそういったところを探すのは逆に難しいという意見もあり、このままになった。

日焼け止めの本数については 1 本では少ない、ということで 2 本ということで合意された。

教養・娯楽費

新聞についてはインターネットでニュースなどはみるので不要ということで変更はなかった。

雑誌・映画鑑賞などで月 5000 円というのは高く、月 3000 円が妥当ではないかという指摘を受け、まず雑誌・書籍について尋ねると、雑誌 1 冊＋新書であれば月 1000 円が妥当だが、新書を 2 冊だと足りなくなるので月 1500 円ということで同意された。

次に別建てで、映画鑑賞（レンタルビデオ）などについて尋ねると、月 3000 円くらいが妥当ということで合意された。

さらに今後のキャリアを考えると資格勉強などが必要ではないか、という提案がなされ、通信などや本などで自分で勉強するなら月 1500 円、教室などに通うなら月 5000 円くらいは必要なのではないかという議論になり、結局、月 3000 円くらいで合意された。

→新聞・雑誌・書籍・教育で積み上げると合計 7500 円必要

旅行については 2 泊 3 日で 2 万円という計算であることを説明すると、4 万円は安いということになり、2 万円の予算で 1 泊 2 日にするか、2 泊 3 日で 3 万円にするかが話し合われたが、結局、後者（2 泊 3 日で 3 万円）で合意された。帰省を含め、@3 万円×2 回で計 6 万円が計上されることになった。また 6 万円の範囲内で夜行バスを使用するなどして、旅行・帰省の間で費用をやりくりすることなどが話し合われた。

誕生日・交際費

リストに計上されている 6.5 万円の内容が備考と一致しない事が指摘された。父・母の日、両親の誕生日で@3000 円とすると計 1.2 万円、飲み会費@3000 円で毎月参加すると計 3.6 万円となり、合計 4.8 万円となるので、確かに差引き 1.7 万円が備考欄では説明のできない差額となる。

この点について、飲み会費@3000 円というのは田中さんの年齢としては安すぎ、@4000 円が妥当ではないかということで、一回当たりの予算を増やすことを合意した結果、1.7 万円の差額の中、1.2 万円分が縮まり、5000 円が残りの差額となった。この部分については、親戚の子のお年玉や帰省時のお土産として使用することで合意した。なお、お年玉として 1 万円程度は必要ではないかという意見もあったが、そんなに必要ではない、ということになった。

贈与金については单身男性の方で 32 歳という年齢を考えると 1 年に 2 回参加する可能性もあることを議論したことを紹介したが、1 年に 1 回のみの参加のまま設定について変更なし、ということになった。

交通費

この部分は男性では定期代を含めていないにも関わらず、女性については含んだ額（8400 円）とな

っており、問題となっていた部分である。そこで通勤の為の費用は考えないことにして、買いものなどのために必要な電車賃について議論した結果、週末に新宿に月8回ほど外出する費用として3,360円の支出が合意された。

5. 住居費

引っ越しの頻度

何年に1回が妥当か尋ねたところ、最低必要な基礎的生活ということで考えるなら、必要ないという意見が出された。更新料がかかるタイミングで引っ越ししたりしないのか、キャリアの転機での引っ越しということを考える必要はないのか、築年数がある程度いったグレードが高いけれども同額の家賃の住居に引っ越ししたりしないのか、などの問いかけも行ったが、現在の住居の立地は便利なところなので引っ越しする必要はない、という意見であった。「老人ホームに入る時期まであまり考えないのではないか」という意見もあった。

そうしたやり取りの中で、耐用年数が2年となって敷金・礼金が処理されている部分についておかしいのでは、という指摘があったので、敷金・礼金は何年くらいで準備・用意することを考えれば良いのか、と尋ねたところ、10年程度が妥当ではないかということで合意された（→敷金・礼金の耐用年数=10年、更新料はかかる）。

敷金

敷金は戻ってくると想定すべきか、という質問に対しては、戻ってきたら「ラッキーと考えるべき」で「あてにしてはいけない」ということで合意された。

引っ越し費用

もし引っ越し場合の引越業者について尋ねると、ブランド系（クロネコヤマトなど）は使わず、見積もりを取って、さらに交渉するのではないのか、という意見が出た。どれほどの価格がかかるか尋ねると、ワンルームパックで29,800円で、さらに交渉次第では安くできるだろうが、この値段を引っ越し費用と考えることが妥当と合意された。

自転車

住宅費用を話し合う中で、削除ということになった。以前のグループで、娯楽として自転車に乗ることや、J-マートに行く可能性などを考え、自転車を入れることになった経緯を説明したが、田中さんの年齢ではいかならないのではないかと、ということで空気入れと共に削除することで合意された。

6. 最終確認

インターネット接続料

安すぎるのではないかというという指摘を受けた。→現在の最低料金について可能であれば確認する。

郵便 宅急便・年賀状

変更しない。

携帯電話通話料

3000円というのは安く、6000円くらいが妥当ではないかということで同意された。また、現在はスマートフォン以外のオプションがあるが、将来スマートフォン以外の選択肢はなくなるのではな

いかという意見が出された。また、本体 0 円というプランは現在はないため、機器代も必要で、型落ちで 2 万円くらいのもので 2 年契約 (=2 年で償還) になるのではないかと、ということになった。ただし機器代については、2 年契約ということまで決められたが、時間的制約もあり、その機器の耐用年数はきちんと合意されていないので、適当な耐用年数 (一般的な電子機器の耐用年数) などをあてはめ、現在の「無料」となっている部分をアップデートする必要がある。

貯蓄

満額の国民年金月額 6.6 万円という説明をすると、入院、老後のための貯蓄として毎月 1.5 万円、できれば毎月 2 万円くらいの貯蓄はしたいとの意見が出された。また掛け捨ての保険が、このリストには入っていることを説明したが、60~65 歳までの期間が不安との意見も出された。

その他

防災ラジオが必要なこと、ガスコンロは部屋についていけば不要であること、裁縫用具一式はボタン付けなどのために必要であることなどが合意された。

7. 感想

(山田)

- ・ 2 回目の最終確認グループであるにも関わらず、被服費関連で多くの時間が必要であり (耐用年数・購入先など細かく確認できた一方)、同日に行われた男性よりも、リスト全体を確認する時間が足りなかった。
- ・ 田中ゆきさんという架空の人物設定であっても、グループに入る人々の嗜好がかなり影響している。特に被服費については、モデレーター側からすれば、ブランドなどについてややこだわりの強い参加者が 2 名含まれていたため、やや高めのブランド選定になってしまった可能性がある。化粧品についても、セザンヌというブランドは嫌だ、というこだわりをもつ参加者の発言が支配的になったしまった印象を受ける。たとえば「それなら 100 均でも」という発言は、もしセザンヌの化粧品を実際に使用していた参加者がいたとしても、そうした参加者が発言しにくい雰囲気醸し出してしまったように思う。
- ・ スマートフォンの急速な普及により、男女とも最低必要な基礎的生活と考える、携帯電話料金が (機器代を含め) 2 倍近く跳ね上がったことについて、どのように反映させるか課題が残っている。住宅費を除く消費支出の 7~8% にも相当し、本当に最低必要な基礎的生活における消費支出バランスとして、ここまで携帯電話料金を増やして良いのか、もう少し議論する時間が必要であるように思う。
- ・ 最低必要な基礎的生活を議論する中で「恥ずかしい」とか「非常識だと思う」という言葉は、一見、議論となっているモノやサービスを最低必要な基礎的生活費として基礎づける根拠としてモデレーターは捉えがちである。しかし、そうした発言により、もし「恥ずかしい」あるいは「非常識だと思う」というモノやサービスを実際に消費している (あるいは消費できない) 参加者が意見を述べにくい状況を生み出しているのならば、そしてその結果、そうしたモノやサービスを発言がないことにより「合意された」最低必要な基礎的生活より低いものとして捉えるなら、結果的に合意されたモノやサービスには上方バイアスがかかってくる可能性はないだろうか。

(上枝)

- ・ 出席者は初めてリストを見ることもあり、「3.一般水準（家計調査・全国消費実態調査）との費目別比較」がすぐには理解しにくいようであった。ふだん支出を費目別にどの程度考えているかによろと思う。
- ・ 洋服や化粧品など全体に価格が上昇した。最低限必要だと考える洋服等の水準に自分の生活が反映されているかもしれない。
- ・ 高齢になるまで現在のワンルームの住居に住み続けるということになったが、高齢者の MIS での住居とは、間取りが異なる。和室が必要かなど時代とともに変化していることもあるが、年齢によって必要・不必要なものもあるのではないだろうか。
- ・ 携帯からスマホなど、短期間に大きく変化しているものがある。その扱いをどうするか、検討が必要である。

以上

MIS 最終確認②グループ（単身高齢男性・女性）感想

場所：三鷹商工会館 301 会議室

日時：2013年3月19日（火）14:00～17:00

参加者：男性5名、女性4名（女性1名欠席）

モデレーター：阿部、岩永、進藤、福山

（岩永）

- 男女混合のグループを経験するのは、二度目であった。前回と同様、参加人数は男女5名ずつの計10名であった。ただし、女性のうち1名は欠席で実際には9名の参加者であった。違いは、座席の位置である。前は、正面からみて右側に男性、左側に女性が並んで着席したのに対し、今回は、男女混合で着席してもらった。
- この座席位置は、良い変化であったと思う。前回より、和やかな自然な雰囲気での話し合いが進められたように感じた。ただし、全体としては男性の方が発言を遠慮しがちであったこと、同時に発言しはじめる場面が何度かあった。
- 今回は、二度目の最終確認グループであるため、全体の金額の高低をはじめに尋ねた。この金額は高すぎる、実際の年金はこんなにはもらえず暮らしていけるわけがない、というような意見が出されたが、最初の感触では、全体の金額をはじめに尋ねるのは少し無理があるように思った。あたり前だが、なぜこのような金額になったか、その過程が参加者に理解されていないからである。
- しかし話し合いの終わりには、このような話し合いの順番をとることで、逆に参加者の理解に繋がるのだと考えた。この手法の特徴を説明しこれまでの話し合いの結果を納得するには役立つということである。次に触れる、全消と家計調査と比較した図もみながら、なぜある費目が高いのか、まず疑問を感じてもらい、次に品目リストをみる。品目リストにあるような細かなモノの積み上げで費用を計算していることが理解されたと思う。話し合いの一番最後に、もう一度全体の金額を確認したとき、最初とは違って、これくらいないと基礎的生活はできないんだな～という雰囲気になっていたのが印象的であった。
- 全消と家計調査と比較した図について。まず、参加者が図を理解するのが困難であった。100%に線を引いて、再度説明し、高い費目の品目リストをチェックした。ある参加者の指摘から、被服費の中身を確認したが、最終的に削るべきという意見はでなかった。もう少し安いものとして、ユニクロを選択してはどうかという意見であった。
- 次に、金額の多い家賃については、間取りとともに合意ができた。高齢者は、特段の

理由がなければ引っ越さないという想定で、敷金も戻ってこないというのが妥当な考えであるとされた。三鷹はとても住みやすく、ひとり暮らしを続けるのに、人間関係を維持していくという点からみても、同じ場所に居住することが重要という意見があった。

- 交通費については、女性の金額が少なく、ひとまず健康な人であれば、少なすぎるだろうという意見が大勢を占め、男性と同じ頻度で電車に乗る設定にかえた。交際費についても、女性の方が金額が低かったが、女性もちろん交際費は必要だという意見であった。男性が3万のところに女性が2万という結果に落ち着いた。前回は、お金のやりとりやせず、孫などは家に招いて食事をつくったりする、という意見であった。これが、ジェンダー差があらわれているのかと考えたが、今回の参加者によると、女性の方がもっと活動的であるから費用もかかるはずだ、という意見であった。
- 一方、軍手、缶詰、ホイッスルなど防災用品、部屋ドライヤー、ポケットティッシュについて、すでに計上していた女性にあわせて男性のアイテムにも追加した。
- その他も、男性の選択と女性の選択を無くす方向での調整が多くなったことが印象的であった。居間のテーブルが、男性はこたつ、女性は普通のテーブルを選択していたが、女性もこたつに変更した。暖房器具の少なさを配慮してのことであった。また、寝具に湯たんぽが追加された。この点は、前回の話合いが夏季におこなわれたのに対し、今回は冬季であったことが影響していると思われる。電気代が6000円にされたのも、高齢者は暑さに対し寒さの方が我慢してはならない、しのぐ方法を得ておかなければならない、というように考えているように思われた。
- モデレーターとして、時間制約があって、金額の小さい箇所は少し軽視しがちな面がある。家事用品の箇所で、ハンガーが1組5つでなく2組10個は最低必要だとか、男性も台所用クレンザーが必要である、女性のヘアブラシの必要など、細かな修正ができ、二回目を開催した意義があったと思う。
- 最期に、その他に計上していた墓参りや非貯蓄型保険について話し合った。實際上、71歳から加入できる医療保険には高額の保険料が必要になるため、できることなら加入すべきだが、基礎的生活としては必要ないという判断であった。
- とはいえ、葬式代などのために、何も予備費をもたないことは心配であるという意見が多数であった。そこでモデレーターから互助会の加入について提案した。一月2500円程度の支払いであれば加入すべきであるという意見で一致した。ただし、この点に関しての研究チーム側の準備不足があって、全員がその仕組みを理解して合意できたかは少し疑問である。
- 全体として、ゆとりを持ちながら議論を進めることができた。表のアイテムは、ほとんど読み上げて確認できた。その要因は、参加者の雰囲気と、2度目の最終チェックであって多少時間に余裕があったと思われる。話合いを続けると、アイテムが追加される傾向があり、全体の金額は以前より高くなった。しかし、アイテムを一つずつ確か

めることによって、その金額の必要性に納得してもらえという手ごたえを得られた。

(阿部)

- 前回に岩田先生も指摘しているが、高齢者にとっての「フロー」の生活費を想像するのは難しいと感じた。洋服にしても、金銭的なもの(貯蓄)にしても、ある程度の蓄積がなされているのが通常であり、まったくゼロの状態を想定した発言は、彼ら・彼女らの経験に基づいたものとは言えず、MISの意義について考えさせられた。例えば、スーツにしてみると、スーツの必要性を聞くと「私は〇年前まで働いていたから、いまは、どんどん処分している」(たくさんあったスーツを少なくしている)といった発言がまずなされ、その後、「でも何枚まで減らしますか」というと「1枚あれば」という答えによろよくなる。一番難しかったのは、貯蓄の扱いである。勤労世代の話し合いでは、「緊急時のための貯蓄」が必要との結果となったが、この「安心」のための貯蓄は高齢者とても同じように必要と感じられている。特に、明示的ではなかったものも(こちらかはっきりと聞くのは失礼だったので)自分の葬式代などのための資金は当然貯蓄したいと思っているようであったものの、そのための資金を計上するのが難しかった。貯蓄の問題の一番きれいな解決法は、用途を指定し、それが起こる確率を決めてもらってそれを月割りで入れることであろうが(例えば、緊急にタクシー代3000円が必要なことが3年に1回あるかもしれない、というように)、その確率がきわめて低いものであっても「安心」のための貯蓄として多くの人が「必要性」を感じている。また、このような「月割り」にする方法は「葬式」など、いつ起こるかまったく想定できない出費については難しい。今回、参加して下さった人の多くからは「私は既に払い終わった〇〇保険がある」「それくらいの貯蓄はしている」といった意見が多く、これをMIS方式で形状するのは難しかった。例え、「どれくらいの貯蓄が安心のために必要ですか」と聞いても、勤労世代と違い、新しく積み上げる必要はないので、月割とした金額を出すことができない。
- 時間的には、余裕をもって終わることができたが、それは、参加者から意見の食い違いが殆どなかったためと思われる。特に、意見をよくいい、表なども理解度が高い女性1人がやや全体をひっぱり気味であったが、そのほかの人については、議論になって始めて理解が進むという感じであった。(表を見ただけでは理解していない⇒一つの可能性として、字が小さくて読めていない可能性がある。あまり皆さん、めがねをかけていなかったが、老眼であったら、あの表はつらいと思う。つまり、表をみているフリをしていただいだけかも知れない。ある人が「これは〇〇ですよ」と意見を言うと、それに対して、意見は言うようであった。高齢者に表やグラフを見ていただく、というやり方は考える必要がある。)

②調査結果